

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あすなる
(ユニット名)	2階 ユニット
所在地 (県・市町村名)	愛知県名古屋市天白区島田2丁目621番地
記入者名 (管理者)	津田 愛子
記入日	平成 19年 7月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人の尊厳を大切に、ゆったり、楽しく生き生きと暮らしで頂ける様支援する。という運営理念の下に、御入居者様の日常生活の支援を行っている。	○ 運営理念のゆったりとは、どの様なことをすれば実現できるか？楽しく生き生きと出来るには何が必要なのか等常に考え支援出来る様、日常的に話し合っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の基本的な考え方を下に、毎朝のミニミーティングにて、出勤者全員が「本日どの様にケアの提供をしたいか」を報告しあっている。又、ケアカンファレンス開催時(月/2回)に運営理念を下に話し合いを行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会毎に、御家族には話し合いをもっている。又、御家族が認知症状の進行において、(自宅に帰ることが難しい場合において)何時までもあすなろで暮して行けるのか等の不安に対しては、認知症状が重くなっても、同じホームで暮して頂きたい旨の説明を行っている。	○ 地域清掃等地域活動にご入居者様と参加し、近隣の方との会話を通じ、理解を深めていただけるよう取り組んでいる。町内会の回覧に通信を回覧して頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域活動への参加や毎日の散歩、及び、ホーム前のJAなどに日常的に出かけ、挨拶を交わしたりし親しんでいただけるよう努力している。近隣の方から「バイオリン弾きにいきましょか？」などの申し入れいただけるようになった。	○ 地域性の為、町内会などの付き合いが希薄である。しかし、働きかけを継続していく事により、地域との関わりが、より、緊密に持てるようになると思える。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会への参加は住民票がある方にはご参加いただいている。老人会働きかけは行っているが、特に活動がないとのことにて参加できていない。回覧板で回ってくる地域活動へは出来るだけ参加している。	○ 学区内の小中学校へ交流の働きかけをしているが、なかなか理解が得られていない。今度も働きかけを続け、交流できる方法の模索を続けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に実地していることはないが、今後そのような話し合いを重ねたい。	○	地域の高齢者の方にお楽しみ会、演奏会等にお越しいただけるよう働きかけたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善すべき点の指摘に対しては行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的開催している。ご提案いただいた事柄は参考になっており、活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の方のご入居もあり、福祉事務所にはよく訪れる。必要な事柄については相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な事案については、どのような方法が考えられるか等カンファレンスにて話し合い、又は、説明をしている。	○	十分な理解を全職員は出来ていない為、繰り返しの指導をしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待法案は既読している。見過ごされる事ないようにしている。	○	介護現場でおき易い虐待に、スピーチロックが挙げられると考えられるが、パーソンセンタードケアを研修会で続けており、その視点に立った介護感の確立が浸透させるよう努めている。高齢者虐待防止関連法の資料を持って勉強会をする予定である。(10月の研修予定に組み入れている)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の下に行なってる。	○ 当方からの解約を求めた事は、H16年に1件あるが、一方的でない、十分な話し合いを重ねて納得と理解を得た。(理由は、身体機能の低下により、当方での一般浴槽での入浴が困難となった為)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	十分なコミュニケーションにより、御入居者様の思いをお聞きしている。又は汲み取れるよう努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては、面会時に必ず報告し、介護記録をお読みいただくようお勧めもしている。また、お一人おひとりの通信に、バイタルチェックの一覧、その他、健康の記録と共に、暮らしぶりを1週間単位で、職員が記入したものを送りしている。また、通信は個別に作られており、管理者からのお便りも個別に記入されている。体調変化はその都度報告	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、御家族様とは話し合いを行っている。(管理者、職員) アンケート調査を実地し、運営に役立てている。 外部へは、苦情相談窓口を重要事項にて説明している。 又、運営推進委員会にご参加いただいている御家族もいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員と定期的に面談をし、提案を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	今年度、御入居者様の状態変化に合わせて勤務体制の見直しをし、変更をした。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動を行う前に、なじみとされるよう、関係作りができるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社外研修は、一般職員にも設けており、順次実地できるようにしている。今年度の目標となっている。社内研修は年度計画をたて、実地している。</p>	<p>○</p> <p>効果的な社内研修プログラムの見直しをし、効果的な社内研修プログラムの再構築をする予定である。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社内の他事業所との交流は活発だが、社外の他社員が自主的に行っているのみに留まっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>就業時間は守られており、残業等も殆どなく、有給休暇も取得できている。</p>	<p>○</p> <p>オーバーワークとならないよう配慮している。又、個別に相談を受けるなどしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年間目標を各ポジションに応じて、各自が立て、各自が自己評価し、それを下に面談を行っている。また、各ユニットにて取り組みたい事柄をスタッフ全員で話し合い、目標として取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>自己評価と他者評価に不自然なギャップが生じないよう、評価項目及び、方法の見直しが課題である。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人との面談を通し、御本人の気持ちや求めている事を傾聴し、受け止めている。意思の表現が難しい方は御家族からの聞き取りからアセスメントし、又、話しかけた事柄への反応(表情などボディーサイン)を見逃す事なき様努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御家族の介護への思い、ご苦勞されてきた事柄、必要な援助を理解し受け止めるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>必要に応じて、御本人様とは、別の時間にご相談を受けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護サービスの提案を行う事もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御本人の理解の範疇を見極め、その方に添った対応をしている。又、御入居間もない間は、こまめにご面会いただけるよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御本人の得意なことを話す事ができる方からは、お話を伺い、教えていただいている。また、得意な事などを話す(伝える)事が難しくなった方からも、人として学ばせて頂き、共に暮すとの観点でホームの運営がなされている為、共に喜んだり、悲しんだりとの関係が築かれている。	○	人事異動を行った為、(ユニット移動) 新たな関係の構築が必要な方がいる。より良い安心できる関係作りを、ユニット間の交流を持って行う。互いに補い合う関係作り。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	なかなか、ご来訪いただけないご事情の御家族もいらっしゃるが、御本人様の笑顔を共に守るべく、コミュニケーションを取っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人様から伺った御家族を思う言葉は、必ずお伝えしている。また、其々の御家族の家族史に敬意を払っている。	○	日帰り温泉旅行に出かけた時は、入浴の介助を支援し、温泉に御家族と浸かれる場面が出来る様支援した。今度もこの様な、御家族だけでは実現の難しい事柄の支援をしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族からの支援の援助に留まっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者様の性格等を鑑み、仲介の援助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご相談等お受けする時は支援している。又、退居後にお電話頂いていた方や、お訪ねいただいていた方も居た。	○	他施設に御入所された方の面会に、仲の良かった御入居者様と訪問している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なカンファレンスとともに、その他気づきや、発見があったことは常に申し送りされてい、御本人の意向を大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居前の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録をしっかりと記入し、その方の現状、心と身を総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訴えや表現が難しい方は、御本人の日常の表情などから、したい事、したくない事を把握できるよう努めている。又、御家族からも伺っている。	○	気づきのシートなどで、各職員の気づきからチームケアに結び付けている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度は定期的に見直している。また、必要に応じて見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かなことまで記録し、申し送りしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別に希望されている毎日の買物の付き添いの支援。希望に添った医療機関への通院介助の支援など行なっている。	○	御家族がご希望で通院介助をされている方については、病状の経過観察の報告などを医師に伝えやすいよう、記録を纏め支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方には多種お越しいただいています。その中から、御入居者様のご希望に応じて関わりを(参加)持って頂いている。	○	福祉会館の方から、ボランティアの紹介をして頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は訪問していただいている。ボランティアによる演奏会や茶話会を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要や希望があれば支援したいと考えるが、現在は希望がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族と相談の上かかりつけ医を選択している。また、他の受診も通院援助し、適切な医療を受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の医師との連携を図りながら、必要に応じて他院の紹介も得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤職員と非常勤に看護師がいる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は御家族の了解の下に、共に、医師の説明などを受けている。また、早期退院を希望する旨を伝えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症状の重篤化については、対応している。医療行為が日常生活を営む上で必要不可欠になった時は現段階では、すべてには、対応できないとの事を契約時に説明している。	○	見取り介護について指針を纏め、関係者との方針を定めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	見取り介護については現在行っていない。	○	御家族との話し合いや、御本人の潜在的な思いを鑑み、見取り介護について指針を纏め、関係者との方針を定めたい。今後の課題である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な情報の提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは、サービス規律に定めてある。又、度々注意を促してある。尊厳については、マニュアル、その他にも記載され、また、職員に浸透している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「したい事・したくない事」「楽しめる事・楽しめない事」に着目し、御本人の思いを大切に支援するよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の暮らしのペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容の店選びは御本人に今は希望がない。毛染め等、其の方に習慣及び、希望のある事は支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、一緒に行っている。職員が一人で行うことはない。御入居様がメニューを決める事もある。	○ 材料を刻む事から、煮る、焼くなどの調理の完成までを、其の方の出来る事がにに応じて出来るよう支援してる。食事中は談話からこぼれる方のないよう配慮している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたい物を召し上がるのを、誤嚥や体重の増加がないよう見守っている。 ロー・アルコール ビールを飲む方もいる。	○ 外食、喫茶などへは、順次ご希望を伺っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげなく排泄パターンをチェックし、失敗がないよう、又は人に気付かれないよう援助している。	○	少々の失禁や下着の汚染はあるも、ご自身でトイレへ行かれる方が多い為、排便の確認が難しい事が課題である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したいとの希望がある方は毎日入浴できるよう支援している。又、ゆったりとお一人おひとり入浴を楽しめるよう支援している。	○	希望に応じ夕食後も入浴していただける。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御本人の状態を注意深く観察し、御本人が必要な時に休息を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事が好きな方には台所仕事。手芸が好きな方、カラオケが好きな方。其々に楽しみを持てるよう支援している。B	○	共同作業として、家事活動を行って、其々に役割分担がご入居者様の間でそれとなく出来上がっているの、見守りですむところは見守っている。手芸なども盛んに行われている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち、その方の管理できる範囲で小遣いを使っている方など、その方に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩は基本的に毎日支援しており、希望者は参加されている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族と共に出かけられる方は、出かける準備など支援している。また、小旅行を年2回企画しており、御家族参加されている。	○	百貨店の生け花展、舞踊鑑賞、その他、外出の機会は多く、希望もお聞きしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く、電話をかける支援は行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御本人の居室に必要な数の椅子やお茶を用意している。又、希望に添って、他の入居者の方と共にお茶を飲むなど個々に応じた対応をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し、取り組んでいる。研修会等も行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解し、取り組んでいる。現状では交通量の多い道路に面している為、玄関に鍵がかかっている。	○	安全とリスクの両面から検討し、段階的に自由に外出できるよう支援したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの配慮は行っている。様子の観察は常に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりをアセスメントして、危険物の取り扱いを検討している。(カンファレンスにて検討している。)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりをアセスメントして、其の方の危険な事の把握をし、事故防止に取り組んでいる。	○	今年度後期の研修にリスクマネジメントが予定されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命訓練、防災訓練は消防署の協力を経て、年2回行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	其の方に応じて、御家族と話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療管理シートにて、体調の変化等の時系列での記録があり、また、申し送りも確実にしている。又、対応について決めがあり速やかに対応できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療管理シートに、服薬情報があり、時系列での記録がある。また、申し送りも確実にしている。又、対応について決めがあり速やかに対応できている。	○	全職員が、全入居者様の服薬内容や副作用を把握し、記憶できていないため、各ユニットの常勤社員が管理している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての研修資料があり、カンファレンスで検討した。	○	乳酸菌飲料を取り入れ、薬剤の量が減り、尚且つ、便秘が改善した。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必要な方には口腔ケア介助している。介助が必要でない方にも言葉かけで、促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分摂取量の記録をして、必要な量の飲水を援助している。食事は継続的な記録と把握している。	○	通常の食事やお茶などで必要量が確保出来ない時は、その日、その状態に合わせて成分栄養飲料などで補食している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがあり、研修会を行っている。	○	職員が外部の研修に参加している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生の取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えるなどしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光や匂いへの配慮をしている。手工芸品などにも季節感を取りいれている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気にいっている場所があり、過ごしている方も居るが、ご自身で居たい場所の選択が出来ない方もいる。	○	其の方の気の合う方と過ごせるよう案内し、共に過ごせるよう援助している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人のなじみの家具を持ち込まれている方と、家具の持ち込みはない方という。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷房、暖房に対して取り決めがあり、配慮している。	○	御本人居室は、御本人の好みや体調に合わせ、温度調節している。又、衣類の着込みすぎ等は小まめに言葉かけしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等も壁面の必要場所に取り付けてあり、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	御本人に合った道具を用意し、共に家事活動する事により、わかる力を生かしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の狭いスペースではあるが、花の手入れなどをしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

比較的、認知症状が軽度の御入居者様が多いユニットですが、生活史の違う方々の共同生活である事を職員が理解しており、職員は、コミュニティーの一員として、ご入居者様方の仲介に努め、家事援助だけではなく、すべての活動を、ご利用者様と共に行っている。ゆったりと寄り添って職員が接する事により、御利用者様の穏やかさ、安心感を生み出せるよう取り組んでいる。他施設よりご入居され、帰宅願望をと無断外出が頻回であったとの方も、帰宅願望の訴えもすぐに消失し、落ち着いて暮されている。認知症状における不安定な行動等を職員の技術と知識と心で緩和して、安心で安全な介護サービスの提供に取り組んでいる。また、生活機能を発揮できる場面を、日常的に取り入れている。